

ユネスコスクール活動紹介

学校名	長岡市立南中学校
加盟期日	平成21年10月28日
活動タイトル	ユネスコスクール活動
活動の概要	当校の教育目標は「自主と協和の精神に富んだ、社会に役立つ勤労人となりましょう」である。その実現に向け、ESD(持続発展教育)の実践を通して、様々な考え方や文化との積極的な交流により、自らの考え方や文化を再認識し、互いに尊重したり互いのよさに学ぼうとしたりする態度の育成を目指している。
【活動紹介】	
<p>☆ 環境、持続可能な生産と消費</p> <p>ゴミ削減の意識を高めるために、教室にはゴミ箱を設置せず、生徒がゴミ袋を持参して自分で出したゴミを持ち帰るようにしている。生徒会活動では緑化委員会を中心に、休日に長岡駅で花壇整備を行った。全校生徒が長岡市緑化センター「花テラス」で花の種の袋詰めやポット洗い等のボランティア活動に参加した。また、夏休み中には多くの生徒が地域のゴミ拾いや清掃等の環境保全活動に参加した。</p>	 <p style="text-align: center;">長岡駅前の花壇整備の様子</p>
<p>☆ 国際理解、平和</p> <p>2年生の総合的な学習の時間では、平和をテーマに探求活動を行っている。長岡戦災資料館ボランティアの方をお迎えして長岡空襲の体験談や思いをお聞きすることで、戦争の悲惨さを知り、平和への想いを強くするきっかけとした。また、長岡市国際交流協会との連携で、ハワイ・ホノルル市にあるミリラニミドルスクールの生徒が当校に来校し、レクリエーション、琴の授業体験などを通して交流を深めた。また、互いの国の文化について紹介し合うことで、異文化理解につなげることができた。</p>	 <p style="text-align: center;">ミリラニミドルスクールの生徒との交流の様子</p>
<p>☆ 防災教育</p> <p>地震を想定した避難訓練を実施した後、水害に関する防災学習を行った。NPO法人ふるさと未来創造堂の事務局長である中野雅嗣様を講師にオンラインで、水害に関する基礎知識、水害に対する防災対策について説明していただいたり、避難する時の行動についてグループで考えたりした。</p>	 <p style="text-align: center;">オンライン講義を聞く生徒の様子</p>

ユネスコスクール活動紹介

学校名	十日町市立飛渡第一小学校	
加盟期日	平成22年3月22日	
活動タイトル	ふるさと環境学習～地域の人々とともにまちや自然をもっと豊かに～	
活動の概要	<p>自然や地域の人やものと触れ合う体験的な活動をとおして、地域活性化、自然保護、お年寄りとの交流などに取り組んでいます。</p> <p>【主な活動】ブナ林体験/飛渡川の環境保全及び啓発/サケの飼育及び放流/米や野菜の栽培及び販売/地域活性化活動への参画</p>	
【活動紹介】		
<p>☆ 飛渡川に親しもう</p> <p>学校の眼科を流れる一級河川「飛渡川」を舞台に活動を展開している。継続して水質調査に取り組み、結果は科学研究発表会で発表している。飛渡川の水質の良さを科学的に確認し、水質維持のための啓発活動を行っている。</p> <p>8月には、地域活性化団体「濃実会」の協力を得て「川遊びの会」を実施している。自然観察員の指導のもと、生物調査や、魚のつかみ取り、川を堰き止めた天然プールで遊んだりする体験を行い、飛渡川に親しんでいる。</p>		
<p>☆ 飛渡米・飛渡野菜の栽培と販売</p> <p>地元農家の協力を得ながら米作りと野菜栽培に取り組んでいる。地域住民と全校児童で「田植え」「稲刈り」を行い、収穫した魚沼産コシヒカリは「飛渡米」として十日町市内や新潟市で販売し、飛渡地域のPRに努めている。</p> <p>学校前の畑で収穫した枝豆やサツマイモ、カボチャは、学校近くの直売所で「飛渡野菜」として販売し、地域活性化の一翼を担っている。</p>		
<p>☆ 飛渡川にサケを呼び戻そう</p> <p>かつて飛渡川に遡上していたサケを再び呼び戻そうと、中魚沼漁業協同組合の協力を得て、サケの飼育、放流に取り組んでいる。毎年12月にサケの卵を提供していただき、放流までの約3か月間、温度管理や水質管理、餌やりなどの世話を1～6年生の全校児童が当番で行っている。</p> <p>3月初めには「濃実会」を中心とした地域住民とともに、サケの成長を祝い、4年後の遡上に期待を寄せて放流を行っている。</p>		

ユネスコスクール活動紹介

学校名	見附市立見附小学校	
加盟期日	平成22年11月15日	
活動タイトル	お花いっぱいプロジェクト	
活動の概要	1 「花育」を中核に据えたESDの推進 2 学年でテーマを決めてフラワープロジェクト 3 地域の方とお花いっばいに	
【活動紹介】		
<p>☆ 「花育」を中核に据えたESDの推進</p> <p>総合的な学習の時間や生活科に「花育」を位置付け、人や自然との関わり・生命あるものへの優しい気持ちを大切にした学習活動を進めている。花や緑への親しみだけでなく、友達や保護者、地域と協働することの良さを「体験」・「体感」できるような「花育」を目指している。</p>		
<p>3 ☆ 学年でテーマを決めてフラワープロジェクト</p> <p>学年が、前庭の花壇、中庭の花壇及び大小様々な花壇やプランターを活用して、花を育てている。1年生と3年生は、生活や理科の学習と合わせて実施し、2年生、4～6年生は、「テーマは何か」「どんな花をどんなふう植えるか」など、学年の花育計画を立てている。そして、自分たちの花を植え、世話の仕方、水やり当番等を決め、愛情を込めて育てている。</p>		
<p>☆ 地域の方とお花いっばいに</p> <p>前庭の中央には、地域の方と飼育栽培委員会の子供たちが一緒に活動する花壇があり、花苗を植えたり草取りを行ったりしている。また、2019年から「アーチプロジェクト」を始動し、つるバラを育てる活動を継続している。定期的な花の手入れは主に地域の方が担当し、普段の水やりと寒肥づくりや施肥を委員会児童が行っている。この活動を通し、地域の子どもたちが思いを一つにして花への愛情や愛着を一層深めている。</p>	 <p style="text-align: center;">つるバラのアーチをくぐって</p> <p style="text-align: right;">寒肥作業</p>	

各学年で計画をした植栽

150周年ゆるキャラ
～お花もデザインに～



ユネスコスクール活動紹介

学校名	見附市立田井小学校
加盟期日	平成22年11月15日
活動タイトル	「田井学」を通じた地域活性化
活動の概要	<p>本校はESDを学校と地域の取組を結び付けるものと捉え、「田井学」を通じた地域活性化を活動テーマとし、ESDの実践を通して「ふるさと田井を愛し、世に役立つことを喜びとする子」の育成を目指している。</p> <p>具体的には、環境教育・伝統文化の継承を柱に①「環境」「持続可能な生産と消費」に関わる緑の少年団として取り組むエコ活動やリサイクル活動、緑化活動。②「世界遺産・無形文化遺産・地域の文化財等」に関わる「耳取遺跡学習」と「みつば太鼓」の活動。③「福祉」アントレプレナーシップ教育の視点を取り入れた福祉教育。④「減災・防災」に関わる「田井小防災の日」の活動、3、4年生の総合的な学習の時間の7.13水害についての調べ活動と学習活動。</p>

【活動紹介】

☆緑の少年団（全児童）によるエコ活動やリサイクル活動、緑化活動

緑の少年団（全児童）が中心となり環境保全と社会貢献を目指して活動をしている。PTAと連携し、児童や職員、保護者、地域の方に呼びかけてトイレトーパーやセロハンテープの巻芯、ペットボトルキャップ、雑誌、段ボールなどを回収した。

また、緑化推進を図るために、見附市内で街頭募金活動を行った。日常活動としては、みつばの森環境整備をはじめ、沿道の花壇やプランターの植栽を全校児童とともに行っている。マリーゴールドは道行く人を和ませた。晩秋にはチューリップの球根を植え、春に咲く予定である。



緑の少年団の活動



みつばの森環境整



花の栽培活動



PTA古紙回収

☆「つばきの郷訪問」と「みつば太鼓」の活動

アントレプレナーシップ教育の視点を取り入れ、高学年児童が地域の老人ホーム「つばきの郷」を訪問し、お年寄りとの交流をもった。

3年生以上の子どもたちで構成される「みつば太鼓」は、地域の方から太鼓演奏の指導を受けながら取り組んでいる。本年度は、学習発表会や市の祭り等で発表をした。力強い太鼓の音色は聴いている人の心に響き、地域の方々はみつば太鼓の演奏をととても楽しみにしている。



つばきの郷 訪問



みつば太鼓

☆「田井小防災の日」の活動

本校では学習参観日の1日を「田井小防災の日」と位置付け、9月6日（金）に全校児童と保護者、講師とともに実施した。新潟県防災教育プログラムを活用した授業、消防署職員やおぢや震災ミュージアム「そなえ館」職員を講師として招聘した防災教育など、「減災・防災」について地域一体となって考えるよい機会となった。消防署職員との救急法の学習や「そなえ館」職員の方々から防災の知識を学ぶことができ、子どもも地域の方も防災への意識が高まった。



救命講習会



防災(地震)授業

ユネスコスクール活動紹介

学校名	柏崎市立北鯖石小学校
加盟期日	平成23年1月11日
活動タイトル	We Love 北鯖石 はばたこう 未来へ
活動の概要	①自分だけでなく みんなのために(学習を深める見方・考え方:多様性、相互性、公平性) ②いまだけでなく これからもずっと(行動を進める見方・考え方:有限性、連携性、責任性)

【活動紹介】

① 自然や環境問題に関わる活動

4年生は「水」特に「近隣河川である鯖石川及びその周辺の自然に関する学習」、5年生は「自然体験教室」、3・4年生は「スケート学習」、1・2年生は「冬の遊び体験」など、地域の豊かな自然に触れる体験活動を通して、地域や自然を大切にしようという思いをもつことができた。



鯖石川流域水路「お魚救助隊」(4年生)

② 地域の人や文化に関わる教育

毎年、地域の老人会の方に講師になっていただき、11月に「地域の方とふれ合う会」を開催した。割り箸ゴム鉄砲、工夫遊び、将棋遊び、あやとり、こままわし、お手玉を教えていただき、地域の方と楽しくふれあうことができた。循環型の生涯学習へとつながることを期待した。

生活科では、畑の先生に野菜の育て方を教えていただき、立派な野菜を収穫することができた。総合的な学習の時間には、地域探検(3年生)や、上下水道・ダム学習(4年生)、稲作体験(5年生)、職業体験(6年)を通して地域の人や文化と深く関わり、地域のよさを実感することができた。



稲作体験「夏休み明け生育調査」(5年生)

③ 国際交流に関わる学習

6月に国際交流活動(ESD集会)を行った。近隣大学の3名の留学生から、低・中・高学年ごとにご講義いただき、外国の生活や文化などを学ぶことができた。また、児童玄関ホールに、留学生の出身地である韓国、中国、台湾の様子を紹介するコーナーを事前に設置し、日本と違う暮らし、食べ物、文化などを学ぶことができた。



国際交流活動(ESD集会 画像は低学年)

④ いのち、人権に関わる学習

全学年で人権教育、同和教育の授業を行った。その上で、6年生が「拉致問題解決に向けた啓発活動」に取り組んだ。佐渡市及び福井県小浜市の小学校とのオンライン会議を経て、「公共施設へのチラシ、ポスター配付」「政府担当者に宛てた手紙送付」等を拉致被害帰国者の方や市教委から助言を受け、自発的に行うことができた。また、4年生は、助産師を講師に招いた「いのちの学習」、低学年はモルモット(1年)、ウサギ(2年)の飼育を通して、いのちの大切さを感じる事ができた。



拉致問題解決に向けた啓発活動(オンライン会議 6年生)

ユネスコスクール活動紹介

学校名	佐渡市立相川小学校	
加盟期日	平成23年1月11日	
活動タイトル	「相川グリーン作戦」 「相川学:総合的な学習の時間」	
活動の概要	1 相川グリーン作戦(全校) 2 相川学(総合的な学習の時間、3年～6年)	
【活動紹介】		
☆ 1 相川グリーン作戦 (全校)	<p>10月に、相川地域の清掃活動を行った。相川奉行所周辺などの5か所に別れてゴミを拾い、活動後に感想を書いた。令和6年7月に「佐渡島の金山」が世界文化遺産に登録され、世界的に注目を集める相川地域の環境美化に取り組もうとする気持ちが高まった。保護者や地域の方もボランティアで参加し、地域の環境美化に努めている。</p> <p>この活動を通して、相川地域を大切に思う気持ちを高め、進んできれいにしていこうとする態度を育てることができた。</p>	 <p>みんなでゴミを拾って、相川をきれいにしよう。</p>  <p>集めたゴミを分別します。</p>
☆ 2 相川学 (総合的な学習の時間)	<p>3年生は「もり上げよう！相川の祭り」の単元で、相川の祭りのすばらしさを、4年生は「やわらぎを知ろう」の単元で、相川の神事「やわらぎ」の由来や踊りを学習した。また、地域の祭りやイベントに参加し、相川音頭や佐渡おけさ、やわらぎ節を発表した。</p> <p>5年生は「唄い、奏で、踊ろう！佐渡おけさ」の単元で、歌と楽器演奏と踊りを習い、伝統文化を引き継ぐ気持ちを高め、学習発表会や地域の観光案内所で発表した。</p> <p>6年生は「相川の魅力を伝えよう」の単元で、自分たちに何ができるかを考えた。そして、佐渡や相川のアピールポイントを地図にまとめ、観光客に手渡する活動を行った。</p> <p>これらの活動を通して、地域のよさを知り、愛着や誇りをもつことができたと同時に、学習の成果や学びを地域に発信し、還元することができた。</p>	 <p>学習発表会で、「佐渡おけさ」を発表しました。踊りも演奏も自分たちでやり、練習の成果を見てもらいました。</p>  <p>地域のお祭り「宵の舞」に参加し、相川音頭を披露しました。</p>  <p>相川を訪れた観光客に、佐渡や相川の魅力を伝える地図を手渡しました。</p>

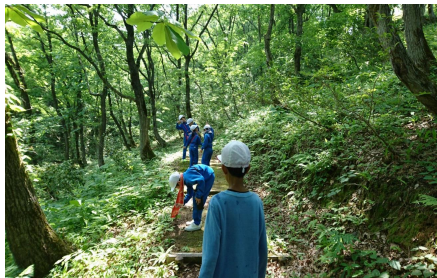

ユネスコスクール活動紹介

学校名	見附市立上北谷小学校	
加盟期日	平成23年1月20日	
活動タイトル	上北谷 大好き！ ～上北谷に学び、上北谷でつながり、上北谷の未来を創る～	
活動の概要	1 <ふるさとの土> 循環型農園活動 2 <ふるさとの水と命> ふるさとの川に学ぶ 3 <ふるさとの人> ふるさとの詩人「矢沢宰」学習	
【活動紹介】		
☆循環型農園活動 秋、稲藁、花壇の枯れた花、牛糞、米ぬかを順番に何度も積み重ね、自分たちの背より高く積み上げ、踏みしめながら堆肥作りを行います。その後、2年間熟成させ、再来年の稲作、畑作に使います。自然に優しい農法を体験し、資源を有効活用する持続可能な環境に優しい農園活動を進めています。	 	地域の方で結成するチーム上北(農援隊)の皆さんから教わりながら堆肥蒔き→田植え→稲刈り→はざかけ→脱穀→堆肥作りを行います。
☆ふるさとの川に学ぶ 漁業組合と連携し、サケの卵を孵化させ稚魚を育て放流する活動や川の生き物調べ等を通して、ふるさとの川がたくさん命を育むきれいな川であることを学んでいます。ふるさとの川の環境のよさに気付くとともに、川の安全性についても学び、防災の意識も高めています。	 	鮭の卵を見守る子どもたち「がんばってね。」 育てた稚魚を放流する子どもたち「帰ってきてね。」
☆生命の詩人「矢沢宰」学習 当校は、生命の詩人「矢沢宰」の母校です。偉大な先輩である「矢沢宰さん」のことを知り、母校であることを誇りに思う気持ちを醸成しています。「矢沢宰朝会」や「こぶし忌」の実施、全校詩集の作成、宰さんの詩の斉唱など様々な活動をし、ふるさとの宝について学んでいます。	 	矢沢宰ファンの方にインタビュー「どういうところが好きですか？」(公民館の矢沢宰コーナーにて) 「こぶし忌」矢沢宰詩集の中から、学級ごとにお気に入りの詩を選び、朗読。

ユネスコスクール活動紹介

学校名	見附市立見附特別支援学校	
加盟期日	平成23年6月21日	
活動タイトル	ユネスコスクール活動	
活動の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 近隣校との交流活動 2 大牟田特別支援学校との交流活動 3 校内における異年齢間の交流 	
【活動紹介】		
<p>☆ 近隣校との交流活動</p> <p>小学部児童が、隣接する見附市立名木野小学校児童と交流活動を行った。一緒に歌を歌ったり、おみこしをかついだりして、楽しい時間を過ごすことができた。中学部生徒は、見附市立南中学校、長岡市立山本中学校の生徒と交流活動を行った。一緒に木製プランターを制作したり、ダンスを発表したりして楽しく取り組んだ。また、小中学部の希望する児童生徒が、自分の居住地の学校で交流会に参加することもできた。</p>	 <p style="text-align: center;">山本中学校との交流</p>	
<p>☆ 大牟田特別支援学校との交流活動</p> <p>同時期にユネスコスクールに加盟した福岡県大牟田市立大牟田特別支援学校とは、お互いの学校を紹介したり、児童生徒の作品を交換したりして交流している。 今年度も各学期1回、学部ごとに図工や美術で制作した作品やメッセージを交換し合うことで、交流を深めた。</p>	 <p style="text-align: center;">大牟田特別支援学校に送った作</p>	
<p>☆ 校内における異年齢間の交流</p> <p>学部を超えた全校交流活動「まごころ交流会」を、各学期1回ずつ行った。自己紹介やクイズ、ゲーム等を行い、中学部・高等部の生徒がリーダーとなって運営した。中学部・高等部生徒は、小学部の児童に分かりやすい内容を考え、実践することで、相手の立場に立って行動することの大切さを学ぶ機会となった。小学部児童は、中学部・高等部生徒と交流することで、様々な友達と関わることの楽しさを感じることができた。</p>	 <p style="text-align: center;">校内における異年齢間の交流</p>	

ユネスコスクール活動紹介

学校名	見附市立見附第二小学校	
加盟期日	平成23年6月21日	
活動タイトル	ユネスコスクール活動	
活動の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 「杉沢の森」を中心に据えた自然体験活動の展開 2 エコ活動の実践 3 降積雪量観測の継続 	
【活動紹介】		
9	<p>☆ 「杉沢の森」を中心に据えた自然体験活動の展開</p>	
	<p>校区にある「新潟県見附杉沢の森」を当校の第二校舎として位置付け、生活科では「校区の探検・季節探し」等の学習に取り組んでいる。また、春には「杉沢の森探検」に出かけ、秋には地域主催の「杉沢の森オータムイベント」に参加し、自然保全活動を行ったり、森のコンサートとして見附太鼓や劇を披露したりする等、地域と一体となった活動を展開している。</p>	
		
	杉沢の森探検の様子	
<p>☆ エコ活動の実践</p>		
<p>年2回のリサイクル活動、エコキャップ運動等を行っている。リサイクル活動では、学区内の地区ごとに古新聞・雑誌・段ボール等を回収し、それをリサイクル業者に引き取ってもらい、児童会活動費に充てている。資源のリサイクルに対する気持ちを高めるとともに、児童会活動の資金を自らの力で生み出すということを意識し、活動している。</p> <p>夏に向けて、ゴーヤやアサガオを育て、校舎の1階にグリーンカーテンを作っている。</p> <p>グリーンカーテンの設置も長年行っており、毎夏、涼しい環境づくりを進めている。</p>		
		
たくさん回収された古新聞・雑誌等		
<p>☆ 降積雪量観測の継続</p>		
<p>昭和44年から、市の依頼を受け、降積雪量観測を行っている。今年度も12月から、当番を決め、継続して観測を行っている。データは、地域の防災・雪害対策の参考にもなってきた。</p> <p>平成24年度には、長年の活動が認められ、内閣府から「社会貢献青少年表彰」を受賞している。</p>		
		
積雪量を計測する様子		

ユネスコスクール活動紹介

学校名	見附市立今町小学校	
加盟期日	平成24年 4月2日	
活動タイトル	地域や自然を大切に社会貢献を目指す	
活動の概要	地域の人から地域にある伝統文化を学び、実際に体験する活動を行い、地域の人と交流を深めるとともに地域の文化を大切にする活動を行った。また、6年生が全校に呼び掛け服やペットボトルキャップを集める活動を行った。そして、校舎周辺で自然環境を豊かにする活動を行った。	
【活動紹介】		
☆ 地域の人から伝統文化を学ぶ活動	<p>新潟県無形文化財「今町・中之島大凧合戦」に関わる学習では、「大凧合戦」の歴史学習や地元の大凧合戦協会の指導による六角凧の製作体験(4年生)、自分たちで製作した凧を使っの親子凧揚げ体験(5年生)の活動を行った。</p> <p>明治時代から伝わる「べと(土)人形」製作体験(3年生)について地元のべと人形の復活に携わっている方を講師にお招きし、べと人形製作を行った。</p>	 <p>凧を揚げている様子</p>
☆ 地域にある材料で社会貢献活動	<p>6年生がSDGsの貧困を減らすための活動として、「服のカプロジェクト」に参加する活動を行った。全校に呼び掛け、着なくなった服を集め発送した。また、地域にある会社のサービスを利用し、ペットボトルキャップを全校で集めリサイクルしてもらい、ワクチンの購入費用あてる活動を行った。</p>	 <p>ペットボトルキャップを数えている様子</p>
☆ 自然環境を活かす学習活動	<p>校舎周辺に植栽活動を行った。地域のボランティアの方の協力を得て、委員会の子どもたちを中心に、花壇に花で文字をつくったり、校門前のプランターに花を植えたりした。</p> <p>栽培活動(1年生・2年生)では、子どもたちが地域のボランティアの方の指導を受けながら、朝顔や大根、さつまいもなどの野菜を育てた。</p>	 <p>プランターに花を植えている様子</p>

ユネスコスクール活動紹介

学校名	見附市立名木野小学校	
加盟期日	平成24年6月11日	
活動タイトル	「暴れ川」刈谷田川とともに生きる	
活動の概要	○学習の出発点 自慢の伝統劇『草薙龍(くさなぎりゅう)』 ○劇『草薙龍』にまつわる歴史調べ ○川との共存を考える	
【活動紹介】		
☆ 学習の出発点 自慢の伝統劇「草薙龍」		
<p>3・4年生が、当地に伝わるヤマタノオロチ伝説と日本武尊の伝説をもとにした劇『草薙龍』を、全校児童・保護者・地域住民に毎年披露している。昭和54年に初演されて以来続いており、お年寄りや小学生時代に自分たちも演じてきた保護者は、定番歌舞伎を見るように楽しんでいる。</p> <p>当校の児童が、ふるさと名木野に誇りを感じる時である。そして、この劇が児童のふるさと学習・防災学習の出発点となっている。</p>		 <p style="text-align: center;">学区探検(小丹生神社)</p>
☆ 劇「草薙龍」にまつわる歴史調べ		
11	<p>3年生は、『草薙龍』の由来を調べるため、学区の神社を見学したり、神楽の様子を見たりすることで、『草薙龍』とつながりがあることに気付いた。さらに、名木野のまちを調べることを通して、「名木野(薙ぎ野)」「熱田」などの地名が伝説をもとに付けられている説を知った。</p> <p>4年生は、社会科で刈谷田川の改修の歴史を学んだ。刈谷田川が曲がりくねった「暴れ川」であり、それが草薙龍の由来であること、古来から治水に苦勞してきて、現代でも「7. 13水害」以後、市民が農地を提供して遊水地を造成するなどの改修が続けられていることなどを知った。また、こども園を訪問したり、ネーブルみつけで公演したりして、学んだことを地域に発信した。</p>	<p style="text-align: center;">劇「草薙龍」</p> 
☆ 川との共存を考える		
<p>5年生は、総合的な学習の時間のテーマを「防災」として、水害を中心に学習を進め、学んだことをまとめた。7月には、市の企画調整課、消防署、中越防災士会など多方面からの協力を得て、「防災スクール」を実施し、「7. 13水害」の時と同様に非常食を食べた。水害を防ぐ工夫を学び、ハザードマップをもとに水害から身を守る避難の仕方考えた。また、自分たちにもできる救助の仕方をも学んだ。学習発表会では、学んだことを劇化する等の工夫をして、保護者に伝え発信した。これらの体験から、災害に備えること、そして人の命を守ることの大切さを実感することができた。</p> <p>さらに、社会科で米作りについて学び、農家の方において田植え・稲刈り体験を行い、米作りの大変さや米のありがたさを実感した。多くの人に地元のお米を食べてほしいと願いをもち、米販売も行った。</p>		<p style="text-align: center;">稲刈り体験</p>  

ユネスコスクール活動紹介

学校名	見附市立葛巻小学校
加盟期日	平成24年6月11日
活動タイトル	地域と自然 そして地球へ
活動の概要	1 森の楽校「くず森カリキュラム」 2 チームで取り組むアースプロジェクト

【活動紹介】

☆森の楽校「くず森カリキュラム」

当校では、創立70周年の記念事業として学校の敷地内に地域住民と保護者・児童で学校の森づくりを行った。森は「くずまきの森」と命名され、今日まで児童の教育活動の場、地域住民の憩いの場となっている。

くずまきの森の一層の活用を図るために「くず森カリキュラム」を作成。各教科の学習の中に森の活用を取り入れている。児童が「くずまきの森」をフィールドに、人・もの・ことにかかわりながら森に親しむ活動を展開することにより、当校の目指す子ども像「ふるさと葛巻を愛し、人のためになることを考えて、実行する子」の実現を図ってきた。今年度はアーティストの「ひなた」を招き、くずまきの森のテーマソングを子どもたち一緒に熱唱することもできた。

○「くずまきの森の活用1」～くずまきの森のシンボルを育てよう

1年生が生活科学習としてアルパカを飼育する。アルパカは1年生の仲間であり、くずまきの森のシンボルでもある。自分たちがアルパカを大切に飼育し、アルパカといっしょにくずまきの森で遊ぶことにより、アルパカのぬくもりや愛おしさを感じ、学校がさらに楽しい「楽校」となる。休みの日になると、地域の方が訪れ、アルパカと触れ合う姿も見られる。

○「くずまきの森の活用2」～学習に生かそう

理科や図工、生活科などの学習で活用する。「くず森カリキュラム」に活動例を明記し、森に親しむ時間を大切にする。

○「くずまきの森の活用3」～もっと楽しく遊べる森にしよう

保護者といっしょに巣箱をつくったり、綱渡りなどの遊び場をつくったりする。また、児童会で作成したルールの中で、秘密基地を作成するなど、児童の遊び場にする。



くずまきの森キャラクター
「くりりん」



くずまきの森



アルパカの入学式



アルパカとのふれあい



ひなたと「くずまきの森」熱唱



秘密基地づくり

☆チームで取り組むアースプロジェクト

これまで行っていた環境エコ活動を、更に児童を中心とした活動へと導くため、学習や児童会活動で一人一人の児童が関心をもつような活動にした。

○「わくわく野菜を育てよう」は、苦手な児童が多い野菜を自分たちで育てて、好き嫌いを少なくし、給食の残量が減ることを目指した。児童が選んだ野菜(トマト、スイカ、きゅうりなど)を育て、収穫した。毎日水やりをしたり、鳥の対策を仲間と相談したりしながら育てる中で、植物を大切に育てる態度も養っていく。また、さつまいもを育て、レシピを考えたり保護者や地域の方に販売したりするなど、アントレプレナーシップ教育の場としてもプロジェクトを活用することができた。

○「グリーンカーテンプロジェクト」は、グリーンカーテンを管理する。室内の温度を下げることでエアコンなどの使用を最小限にし、消費電力を抑えることで地球の環境を守ることを目指した。委員会を中心にボランティアを募りゴーヤ苗の植え付けをしたり、追肥、水やりなどの世話をしたりした。

○委員会活動を中心に学校周辺を自分たちの育てた花で美しく飾ることで、楽しく元気な学校にしていくことを目指し、苗植え、日々の水やりや咲き終わった花の摘み取りを行った。

こうした成果が認められ、これまでに「みつけお花いっぱいコンテスト」で、優秀賞を受賞したこともある。



プランターに花苗植え



ゴーヤの苗植え



夏野菜の苗植え



日差しを遮るゴーヤ

ユネスコスクール活動紹介

学校名	見附市立今町中学校		
加盟期日	平成24年 7月2日		
活動タイトル	地域伝統文化を学び継承する力と環境を整備する力を養う活動		
活動の概要	1 地域伝統文化の学習・体験活動……大凧合戦への参加・伝統芸能との触れ合い 2 環境学習の実践……グリーンカーテンや花壇づくり、ワックスがけなど 3 ESDに向けての実践……いじめ見逃しゼロスクール集会、あいさつ運動、助産師さんによる性と生についての講演		
【活動紹介】			
<p>☆ 大凧合戦への参加など（地域伝統文化）</p> <p>地域の凧協会の指導を受け、江戸時代から伝わる6月の「見附今町・長岡中之島大凧合戦」に参加している。約8畳分の大きさの紙に中学生が絵を描き、地域の方と共に大凧を完成させる。凧合戦当日には、相手の凧と凧ひもを絡め合い、引っ張り合う「地がらめ」を体験した。その他、地域連携フェスティバルで地域の伝統芸能「上新田神楽」を鑑賞し、伝統を守る心や継承していくことの大切さを学んでいる。</p>	 <p>8月に体育祭で展示する大凧を制作</p>	 <p>翌年に合戦会場で地がらめを体験</p>	
<p>☆ グリーンカーテンづくりなど（環境学習）</p> <p>毎年、夏季の教室環境改善のため、ゴーヤを用いたグリーンカーテンづくりに取り組んでいる。この取組により、グリーンカーテンによる室温の変化や日陰の涼しさを感じ取り、限りある資源を活用していくことの大切さを考える一助となっている。また、環境委員が廊下に花を置いたり、ボランティアを募って校内のワックスがけを行ったり、新聞委員が掲示物の配置を工夫したりするなどして、校内や教室環境の美化に努めた。また、1学年では地域貢献活動として地域の神社を清掃した。</p>	 <p>ゴーヤ苗を用いたグリーンカーテンづくり</p>	 <p>ボランティアを募って行ったワックスがけ</p>	
<p>☆ いじめ見逃しゼロスクール集会など（ESDにおける）</p> <p>いじめ見逃しゼロスクール集会を2回行っている。1回目は、いじめの見逃しをゼロにするための自分たちの行動宣言を考え、2回目は、小学校6年生と一緒にいじめが起きない人間関係づくりをテーマに生徒会役員が寸劇を行い、寸劇から何が問題なのかを考え、いじめの起きない雰囲気づくりが大切なことを確認した。自分たちだけでなく、小学生とともに考えることで視点が広がる活動となった。また、あいさつ運動で、中学生が小学校へ、小学生が中学校へ来校し合うことで交流を深め、いじめの見逃しをゼロにするための風土づくりに努めている。各学年の発達段階に見合った性に関する講演を行っている。性差や性的志向などに関わる講演内容でジェンダーについて理解を深める機会となった。</p>	 <p>寸劇の後、問題点と解決について小学生とともに考えた</p>	 <p>性に関する講演会で性や性差、性的志向について理解を深めた</p>	

ユネスコスクール活動紹介

学校名	見附市立新潟小学校	
加盟期日	平成24年12月21日	
活動タイトル	地域に誇りをもつ心豊かな子どもの育成	
活動の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 校区に伝わる「獅子舞」の継承活動の推進 2 全校で獅子舞を学ぶ「獅子の日」の実施 3 花や緑とかかわる体験活動 	
【活動紹介】		
☆「獅子舞」の継承活動の推進	<p>350年以上前から伝わる小栗山不動院の獅子舞を平成8年度から学校の教育活動に取り入れ、4～6年生が主体となって、地域の獅子舞保存会の方から指導を受けながら、笛、太鼓、獅子舞、神楽舞の技を練習し、継承活動に取り組んでいる。</p> <p>小栗山不動院大祭での発表をはじめ、地域のイベントに出演することをとおして、獅子舞の伝統の素晴らしさを伝えるとともに、地域に対する誇りを持ち、自信を深めている。</p> <p>平成25年度、今までの継承活動が認められ、博報賞を受賞し、日本文化理解教育部門で文部科学大臣奨励賞に選ばれた。また、獅子舞のいわれを児童が紙芝居として作成し、紙芝居文化推進協議会主催の「手づくり紙芝居コンクール」で「加太こうじ賞」を受賞した。</p>	
☆全校で獅子舞を学ぶ「獅子の日」の実施	<p>年2回「獅子の日」を設定し、全校で獅子舞について学んでいる。高学年児童が低学年に獅子舞のいわれを伝えたり、笛、太鼓、獅子頭に直接接触し、体験したりする活動をとおして、全校児童が獅子舞に関わる取組を行っている。</p> <p>低学年の児童は、獅子舞を実際に見ること、獅子の日の活動を通して、獅子舞に対する理解と自分も高学年になったら引き継ぐというあこがれの気持ちをもつようになる。</p> <p>「教えてもらったとおりに演ずる」日本文化の世界を体験する活動は、他の教科学習では味わうことができない貴重な体験である。</p> <p>平成27年度は、獅子舞活動20年目を祝う会を児童の企画で開催し、さらに伝統を守り、継承していこうする意欲を新たにしました。</p>	
☆花や緑とかかわる体験活動	<p>花いっぱい運動の一つとして、全校縦割り班で花壇やプランターに花を植え、水やりや草取りなどの世話も班ごとに責任をもって行っている。また、児童環境委員会の児童が中心となって、主体的な活動となるように計画立案などを行っている。</p> <p>校舎脇には、学校の森(いこいの森)があり、子どもたちの遊び場でもあり、学習の場となっている。この森では、生活科の自然遊び、理科や総合的な学習の時間での自然観察、木の実や葉を使った工作などに活用している。平成28年度は、いこいの森ができて20年目を祝う会を開催し、これまで森づくりに関わってきた方に感謝するとともに、森を大切にしていきたいという気持ちを改めて感じる機会となった。保護者や地域の人と職員とが定期的・継続的に整備作業を行い、子どもたちが親しみやすい環境を維持している。</p>	
	 <p>小栗山不動院大祭での獅子舞披露</p>	
	 <p>6年生から獅子舞伝承</p>	
	 <p>全校縦割り班で花植え</p>	
	 <p>6年生がいこいの森へ記念植</p>	

ユネスコスクール活動紹介

学校名	見附市立南中学校	
加盟期日	平成26年2月27日	
活動タイトル	見附南中「エコ活動」および「地域貢献ボランティア活動」	
活動の概要	① 緑化活動(1年生「花壇づくり」、2年生「フラワーロード」、環境美化委員会「グリーンカーテン」) ② ボランティア活動(募金活動、古紙回収)、地域コミュニティの行事等(手挙げ式一人一ボランティア活動) ③ 地域貢献活動	
【活動紹介】		
<p>☆ 緑化活動</p> <p>1年生は、6月に校舎前面に花壇つくった。(写真左上) 2年生は、5月に校門前から学校前の道路に、フラワーロードとして、サルビアを植えたプランターを並べた。地域の方から御指導をいただき、プランターを入れる木箱を作成した。(写真左下) 環境美化委員会と創作活動部が協働して、教室の窓越しにグリーンカーテンを設置した。(写真右)</p>	  	
<p>☆ ボランティア活動</p> <p>福祉委員会は、5月に緑化募金、11月に赤い羽根募金を実施した。(写真左上下) 環境美化委員会は、年間を通じて古紙回収を実施した。(写真右上) 今年度は、「手挙げ式一人一ボランティア」を実施した。これは、生徒が校外での奉仕活動に自分から参加の意思を示して申し込み、主体的にボランティア活動に取り組む活動である。全校生徒の3分の2以上が、自分で何らかのボランティア活動に応募して参加した。 学校の中庭の落ち葉掃き(写真右下)</p>	     	
<p>☆ 地域貢献活動</p> <p>全校生徒が、5月に地域貢献活動として、地域の環境美化や安全のための活動を実施した。各地区のリーダーを「親善大使」として、区長や町内の担当の方に相談したり協力を得たりしながら、除草や清掃活動等を行った。多くの生徒が、地域に貢献し達成感や充実感をもった。 上記の活動により、生徒の自然保護や地域の環境改善に寄与しようとする意欲や奉仕活動に参加しようとする主体性の涵養が図られた。</p>	   	

ユネスコスクール活動紹介

学校名	見附市立見附中学校	
加盟期日	平成26年9月25日	
活動タイトル	地域の元気は見中が創る ～見中から見附へ～	
活動の概要	1 防災学習 ～自然・地域～ 2 仲間づくり活動 ～人権～ 3 地域に関わる活動 ～地域・環境～	
【活動紹介】		
<p>☆ 防災学習</p> <p>様々な体験活動を通して、防災意識や避難生活に関する知識を高め、災害が起きた時に自分たちに何ができるかについて、主体的に考えることを目指した。見附市のハザードマップの見方や刈谷田川の氾濫危険水位などの講演を通して、「マイ・タイムライン」について学んだ。また、市役所や消防本部の方から講習をしていただき、避難所体験や救命活動について学んだ。他にも「やまこし復興交流館おらたる」「木籠メモリアルパーク」を訪問し、震災学習を行った。</p>	 <p style="text-align: center;">避難所体験</p>	
<p>☆ 仲間づくり活動</p> <p>生徒会事務局、専門委員長、学年委員らがユネスコリーダーとなり、仲間づくりについて、自分たちにできることは何かを考え、中央委員会を中心として活動を展開した。年に2回「いじめ見逃しゼロスクール集会」を生徒会事務局が企画し、いじめを見逃さない学校づくりに向けて取り組んだ。今年度は学校生活やSNS上でのやりとりなど、具体的な事例を通していじめを防ぐためにはどうしたらいいかを、全校生徒で共に考えた。</p>	 <p style="text-align: center;">いじめ見逃しゼロスクール集会</p>	
<p>☆ 地域に関わる活動</p> <p>地域と関わり合いながら「地域の元気は見中が創る」ことを目指し、地域貢献活動や見附市が取り組むSDGsに関連した取組を企画し、実行した。それぞれの分団で設定した場所を訪問して、朝のあいさつやゴミ拾い、除草作業などをする地域貢献「見附スマイル活動」に取り組んだ。また、地域コミュニティの方と生徒会事務局が連携し、地域のイベントや活動に積極的に生徒が参加した。各委員会活動においては、緑花委員会が校内を涼しく過ごすことを目指した「グリーンカーテンづくり」、環境委員会が節電を呼びかける「節電week」などを行った。</p>	 <p style="text-align: center;">地域の方と協力して育てたサツマイモ</p>	

ユネスコスクール活動紹介

学校名	見附市立西中学校	
加盟期日	平成 26 年 9 月 25 日	
活動タイトル	「地域から学び、地域を考え、地域に働きかける」ことに積極的な生徒の育成	
活動の概要	1 地域から学ぶ(地域交流)、防災学習 2 地域から考える(生徒の自主性)、環境学習 3 地域に働きかける(地域貢献)、総合的な学習の時間・ボランティア活動	
【活動紹介】		
☆地域から学ぶ（地域交流） 地域の産業の種類やそこで働く人の意識や願いを学んだり、実際の体験で産業を支える人材の必要性や労働の大切さを地域の方との交流で学んだ。 「防災学習」では地域の防災マップを参考に、異常気象による風・水害に対する対策を考えた。実際に地域の防災訓練に参加して、地域の一人暮らしの高齢者の現状や防災意識を学ぶことで、地域の一員として中学生ができることを学んだ。	職場体験 	防災訓練 
	「職場体験」「防災訓練」で地域から学ぶ	
☆地域から考える（生徒の自主性） 市のスマートウェルネスという健康増進事業につながる「西中ウォーキング」を行った。市内を歩くことで身近な環境の変化に気づくとともに、地域や保護者の協力も得て、地域一体となって生徒を支えていく活動となっている。 また、地域の民謡流しの活動に参加し、「みつけ祭り」の文化継承を考えた。	西中ウォーキング 	民謡流し（みつけ祭り） 
	「西中ウォーキング」「みつけ祭り」で地域から考える	
☆地域に働きかける（地域貢献） 3学年では、総合的な学習の時間において起業体験を通し、会社のしくみを学習することで、将来地域での地域興しを意識したり、地域へ貢献できる態度を養ったりした。 生徒の自主的な活動として、「あいさつ部」は、学校から地域へ広がるあいさつ運動を展開した。「ボランティア部」は、校内に作った農園で、さつまいもを栽培し、できあがった芋を地域の市場で生徒自らが販売したり、市場の方のお手伝いをしたりすることで、地域の方から喜んでもらえる活動に発展した。	起業体験学習 	地域販売 
	「起業体験学習」「ボランティア」で地域に働きかける	

ユネスコスクール活動紹介

学校名	十日町市立松之山中学校		
加盟期日	平成27年2月19日		
活動タイトル	地域と共に考えるわたしたちの未来		
活動の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域から学ぶ「まつのやまタイム」 2 地域の自然から学ぶ部活動 3 地域行事や地域の人々から学ぶ活動 		
【活動紹介】			
1 地域から学ぶ「まつのやまタイム」		<p>「地域講師に学ぶ」地域の自然の豊かさ、里山の保全の大切さを知識として学ぶ</p> 	
<p>「まつのやまタイム」では、地域の自然や文化、人々の暮らしにテーマを求め、探究学習を行っている。1・2年生は地域の自然環境を守る方や「大地の芸術祭」を支える方などからお話を聞き、多様な生物が暮らす里山の重要性や、地域の文化芸術の果たす役割を知り、視野を広げている。3年生では地元の魅力を再発見し、修学旅行においてその良さをピーアールしたり商人体験として商品販売を行った。まとめでは、地域を支えるために自分たちができること、松之山の未来を考え、提言を行った。</p>		<p>「商人体験」修学旅行で地域の魅力のピーアールと商品販売を実施</p> 	
2 地域の自然から学ぶ部活動		<p>「アウトドア部」松之山キャンプ場でのカヌー、サップ体験の様子。自然を利用した楽しみ方を体験している。</p> 	
<p>特色ある部活動にアウトドア部と自然科学部がある。アウトドア部は松之山キャンプ場やスキー場を中心に、カヌーや釣り、スノースポーツなどのアウトドアスポーツを通して自然の魅力や保全の大切さを学んでいる。自然科学部は、アメリカザリガニによる棚田の農業被害が深刻化する現状を解決しようと、森の学校キョロロと連携して駆除活動を行っている。また、絶滅危惧種に指定されたトノサマガエルの減少理由について研究する生徒など、生物多様性と里山の保全に関わる視点での研究を行っている。</p>		<p>「自然科学部」キョロロ近くの池でのザリガニ駆除・捕獲の様子。捕獲したザリガニは調理していただきました。</p> 	
3 地域行事や地域の人々から学ぶ活動		<p>「山菜取り」地域・保護者の協力を得て実施される伝統の山菜採り。山菜の種類、採り方等を学んだ。</p> 	
<p>地域の方や保護者と共に実施している春の山菜採り行事は、40年以上の伝統がある。山菜取りは昔ほど盛んでなくなったが、この活動が山菜の採り方や食べ方を学ぶ機会ともなっている。冬季は、松之山の伝統行事である「婿投げ墨ぬり」の由来を学び、全校で伝統行事を体験している。また、学園祭の午後には、地域の方を講師とした体験活動を実施している。ブナ材を利用した木工体験、野鳥こけしづくり、地域の野草で作るアロマオイル体験など親子で地域の魅力を再発見する活動となっている。</p>		<p>「地域講師の体験活動」わら細工体験の様子。親子で地域の文化や魅力を楽しんで学んだ。</p> 	

ユネスコスクール活動紹介

学校名	粟島浦村立粟島浦小中学校	
加盟期日	平成 27年4月23日	
活動タイトル	海に囲まれた粟島を深く理解し、ふるさと粟島を誇りに思う子供の育成	
活動の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・地場産業と関連付けた体験学習 ・他地域の学校との交流学習 ・地域を知り、地域を守る学習 	
【活動紹介】		
☆地場産業と関連付けた体験学習		
<p>ア わかめ採り(小中学校合同) 島伝統の地場産業であるわかめ養殖を、毎年、わかめ巻き(11月)、収穫(4月)、販売のサイクルで体験している。今年度も4月のわかめ収穫の際には、保護者や地域ボランティアの協力を得ながら活動を行った。50年以上の歴史がある「わかめ採り」は、親や祖父母世代が体験してきたものであり、ボランティアで参加して下さる地域の方すべてが講師である。この体験を通して「海の恵み」を深く実感している。</p> <p>イ 魚釣り体験・タコ獲り体験(小学校) クラブ活動の時間を活用し、粟島ならではの魚釣り体験(6月)、タコ獲り体験を行った。釣った魚を捌いて料理にしたり、獲ったタコを粟島の伝統料理にしたりと「海の恵み」を実感できるようにしている。</p> <p>ウ 枝豆の栽培体験学習(中学校) 学校の近くに畑を借りて、粟島で多く栽培されている枝豆「一人娘」を栽培している。種まきを全校生徒で取り組み、中学生を中心に草取りや収穫の活動も行ってきた。</p> <p>エ 大謀網漁体験(中学校) 地元漁師さんの御厚意で「大謀網漁」の体験活動を行っている。乗船し、網を引き、獲れた魚の選別を行うなど、日ごろできない貴重な体験をとおして、生徒たちは漁業について深く関心をもつとともに粟島の魅力に気づき、郷土愛を育むことができた。漁から出荷までの一連の活動を通じて、地域の方々や保護者と触れ合い、人間関係を深めながら粟島の産業について学ぶ貴重な機会であった。</p>		 <p>わかめ採り</p>  <p>わかめ巻き</p>  <p>タコ獲り体験</p>  <p>交流学習(小)</p>
☆他地域の学校との交流学習		
<p>小学校は年2回、中学校は年1回、他校を訪問している。普段は少人数で学び活動している児童生徒にとって、大人数の中で活動する経験をし、交流することとおして社会性を育成することができた。また、オンラインを活用し、遠隔での交流学習も積極的に行っている。</p>		 <p>交流学習(中)</p>
☆地域を知り、地域を守る学習		
<p>ア 粟島の浜清掃活動(小学校、中学校) 児童生徒会が主体となって清掃活動を行った。自分たちが水泳授業で使用したり、海水浴で賑わったりする粟島の浜をいつまでもきれいに保ちたいという願いを込めての活動である。この活動をとおして地域の自然を自分たちの手で大切にしていこうという意識の高揚が見られた。</p> <p>イ 粟島の海的美しさを学ぶ学習(小学校、中学校) 粟島自然体験学校の方を講師に招き、カヌーやシーカヤックの体験教室を行った。これにより海洋教育がより一層推進され、小学生と中学生全員が粟島の海的美しさを体感することができた。</p> <p>ウ 粟島の「よさ」を知り、発信する活動(小学校、中学校) 小学校では「粟島の伝統」をテーマに総合的な学習の時間を行っている。伝統芸能や伝統料理など、粟島の魅力的を知り、その「よさ」を実感することで、動画にしたり、スライドにしたりすることで発信している。 中学校では総合的な学習の時間において「粟島の魅力」や「島の発展」を追求している。1年生は、粟島のすばらしさを「見る」、「知る」ことから始まり、2年生は粟島の特産物である枝豆「一人娘」を大豆にして収穫を行った。栽培体験をとおして粟島の伝統的な生活様式と大豆を使った食文化について学んだ。3年生は、粟島の発展に向けて、まずは「粟島に来てもらう」、来てもらうためには「粟島を知ってもらう」、知ってもらうためには「SNSを活用する」という考え方から「粟島のよさをSNSで発信していく」ことに取り組んだ。</p>		 <p>水泳場の浜清掃</p>  <p>シーカヤック体験</p>  <p>粟島のよさを発信</p>